

MB&F M.A.D.ギャラリーにて、 ファビアン・エーフナーの作品を紹介する写真展「Disintegrating II」を開催

M.A.D.ギャラリーでは、有名なスイス人写真家、ファビアン・エーフナーを迎え、その素晴らしい大判サイズ 5 点の作品を紹介する写真展「Disintegrating II」を開催する。展示される作品は、エーフナーによる「Disintegrating」シリーズの第 2 弾。このシリーズ最初の作品は 2013 年にジュネーブの MB&F M.A.D.ギャラリーで発表され、その際には 3 枚の写真が展示された。

ファビアンは見る者の心や気持ちに強く訴えかける写真を創造することで、アートと科学を融合した独特な世界を写し出し、大きな反響を呼んできた。ファビアンは、波動、求心力、虹色、炎、強磁性流体など、人の目には見えない無数の瞬間を写真に残すため、常に目を光らせている。

ジュネーブの M.A.D.ギャラリーで展示するこれらのアート作品には心底圧倒される。エーフナーは 2 か月をかけて作品を創作し、1 つのイメージを生み出すのに 2,000 枚を超える写真を使用しているのだ。「Disintegrating II」シリーズの 5 枚の写真は、時代を象徴するスポーツカーの爆発する瞬間を捉えたものだ。エーフナーはスケールモデルを分解し、部品をひとつずつ、その配置も含めて写真に収めることで、自動車が爆発するまさにその瞬間のイメージを苦心して作り上げた。

この見事な写真のシリーズでは、コンピューターで処理を施したイメージを、あたかも実物を映した写真のように見せている。

エーフナーは言う。「3D レンダリングのもつ、混じりけのない、くっきりとした画像は、いつも僕の心を掴んで離しません。そこで、このようなタイプの美しいイメージと写真のもつ真の強さを結びつけてみようと思ったのです。」

「Disintegrating II」シリーズは、様々な時代を象徴するスポーツカーが爆発する姿を表現した 5 枚の写真で構成されている。モデルとなっているのは以下のマシンである：

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| - アウディ アウトウニオン タイプ C (1936-1937 年) | 作品タイトル: Disintegrating 04 |
| - マセラティ 250F (1957 年) | 作品タイトル: Disintegrating 05 |
| - フォード GT40 (1969 年) | 作品タイトル: Disintegrating 06 |
| - プガッティ 57 SC (1934-1940 年) | 作品タイトル: Disintegrating 07 |
| - ポルシェ 956 (1982 年) | 作品タイトル: Disintegrating 08 |

それぞれの写真は、次の 2 つのサイズがある：140x70cm (8 枚限定プリント) および 230x115cm (3 枚限定プリント)。

M.A.D.ギャラリーの設立者兼キュレーターであるマクシミリアン・ブッサーは次のように語る。「ファビアン・エーフナーの作品は、メカニカルアートがいかに力強い美しさを発揮できるのか、ということを示す絶好の例です。身近に存在する物体が粉々に砕け散る瞬間を見せる。それは、作品を鑑賞する人がこれらの物に抱いている認識に対して、疑問を投げ掛け、挑みかかることでもあるでしょう。『Disintegrating II』は、メカニカルアートを称えるという M.A.D.ギャラリーのコンセプトが見事に凝縮された作品です。」

「Disintegrating II」について

一般的に、写真はある一瞬を切り取るものであるのに対し、「Disintegrating II」シリーズはいずれも一瞬を創造したものとファビアン・エーフナーは語っている。「このイメージの中で皆さんが目にしていないものは、実際の世界に存在したことがありません」。エーフナーはこのように述べる。「車が粉々に砕け散るように見えるモノは、実際のところ、2,000 枚もの個別のイメージを組み合わせて人工的に作り出した「瞬間」です。一瞬を創造する、というのはユニークな喜びに満ちています... 一瞬を凍りつかせることは感覚を麻痺させるのと似ています。」

ファビアンはまず、個々の部品が収まるであろう位置を紙の上にスケッチする。そして、モデルをまさに「ばらばら」に解体していくのだ。ボディから小さなネジに至るまで。それぞれの車には 1,000 個以上の部品がある。

その後、最初のスケッチをもとに、細い針と糸を使い個々の部品を決まった位置に置いていく。細心の注意を払いながら各ショットの角度を決めたあと、それぞれに適した照明を設置し、部品を写真に収める。「Disintegrating II」のイメージを作り出すために、彼は気の遠くなるような膨大な枚数の写真を撮った。そして無数の写真を合成し、1枚の写真を製作するための後処理が施される。基準点となるのは車輪。Photoshop を使いあらゆる部品を1枚のレイヤー(マスク)へと落とし込み、切り取り、最終イメージへと貼り付けていく。

「この写真はこれまでで最も遅い高速イメージと言えるでしょう」ファビアンは言う。「あるほんの一瞬を切り取ったようなイメージを作成するために、2か月を費やしました。どのモデルも複雑な構造で、車の解体にはそれぞれ1日以上かかっています。とはいえ、少年時代にだれもが夢中になった世界です。細部を分析する過程は楽しくもあり、解体ではさまざまな発見がありました。タマネギの皮をむくような感じですね。」

しかし、彼はこうも述べている。「一番手強かったのはカメラ、レンズ、そして照明のセッティングでした。美しい写真が撮れないと、それはもうストレスがたまりましたから！」

ファビアン・エーファナーの経歴

ファビアン・エーファナーは1984年、スイスに生まれた。芸術一家に育った彼は、その後、芸術学校へと進み、製品デザインの学位を取得した。

14歳のとき、ファビアンはハロルド・エジャートンの弾丸がりんごを打ち抜く瞬間を収めた写真に出会う。これが彼を最初にカメラに向かわせるきっかけとなった。

「僕はかなり幼いころから、色々な種類のアートに触れてきました」と彼は言う。「結局、自分の興味が向かった先が写真だったので。」

でも、古くからある写真ではなかった... ファビアンは、アートと科学の融合に傾倒する。ファイバーグラスのランプと、コーンスターチを満たした風船を破裂させて作った羽毛が綿あめのように立ちのぼる「星雲」の美しい写真を撮った。スピーカーの音波に反応して変化する色の結晶、管にペンキを流し込むことで強磁性流体の作り出す模様を驚異的に捉えた写真、求心力によって形成された無数の色が踊るカラフルな写真などを撮影した。

「僕は目に見ることのできない現象を詩的に"見せる"ことに挑戦しています」一息おいて彼は続ける。「そのため、見る人たちをある一瞬に留め、僕たちの周りを取り巻く不思議な世界をじっくりと味わってもらいます。」

「僕を虜にするのは僕の周りを取り巻くこの世界です。科学のありとあらゆる分野に深い興味を持っています。何か新しいテーマを始めるとき、最終的な写真がどのようになるかはほとんど予測できません。しばらくは自分なりに模索し、どのようなものかを感じられるようになり、それからしばらくして、写真のアイデアが浮かびます。」

ファビアンはスイスのチューリッヒから40分ほどのアールラウにフォトスタジオを構えている。彼の作品の販売は世界中でプライベートな直販に限定されている。彼は広告キャンペーンやアートプロジェクトにおいて著名な国際ブランドに携わってきた。その中には多くのフリープロジェクトも含まれる。

ファビアンは最近、TED Talk の中で、広める価値のあるさまざまなアイデアを対象とした非営利活動の一環として、彼のアイデアとアート作品についてのプレゼンを行った。過去5年間、彼の評判は着実に上がっている。

M.A.D. ギャラリー(ジュネーブ)

所在地: Rue Verdaine 11, 1204 Geneva, Switzerland
お問い合わせ: info@madgallery.ch
電話: +41 22 508 10 38
ウェブサイト: www.madgallery.net
作品の販売: <http://shop.madgallery.ch>

Twitter、Instagram、Facebook (@MBFMADGALLERY)で最新情報を発信しています。

詳細についてはこちらまでお問い合わせください:
Juliette Duru (MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland)
Eメール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36